No.11

令和６年１２月市議会定例会

提　案　理　由　（要　旨）

１２月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員皆様には、御健勝にて御参会いただき、当面する諸案件について御審議いただけますことは、市政進展にとりまして誠に喜ばしく、感謝を申し上げます。

去る１０月２７日に投開票が行われました衆議院議員総選挙では、与党の議席数が過半数を割り込む結果となりました。その後、今月１１日に召集された特別国会におきまして、衆議院の首相指名選挙が行われ、３０年ぶりとなる決選投票を経て、第１０３代首相に石破茂氏が選出されました。

これにより、同日、第二次石破内閣が発足しましたが、少数与党による政権運営となりますことから、国会運営や政策決定のプロセスなどがこれまでとは大きく変わることが見込まれます。

国会では、税制度の見直しや物価高騰に対する経済対策など、国民生活に直結した法案について議論がされているところですが、こうした施策は、国民生活はもとより、私たち地方自治体にとりましても、行政運営や財源確保などに大きな影響を与えるものとなりますので、これまで以上に国の動向に注視し、市民生活に支障や不安が生じることのないよう、スピード感をもって、適切に対応してまいります。

さて、１１月１６日及び１７日に開催しました「熊谷市産業祭」ですが、近年、新型コロナウイルス感染症の影響などによ

り、規模を縮小するなどし、実施してまいりましたが、今年は、５年ぶりに２日間開催とし、「くまがや交通安全フェア」との同時開催に加え、埼玉県及びＪＡグループさいたまなどによる「彩の国食と農林業ドリームフェスタ」との共催により盛大に開催することができました。

当日は、市内外から多くの方にお越しいただき、本市はもとより、県内の新鮮な農産物や、食文化に親しんでいただくとともに、本市の伝統的なものづくりや、ステージイベントなどの催しなどもあり、食欲の秋、文化の秋を御堪能いただけたものと考えております。

お陰様で、産業祭は今年２０回目を迎えることができました。こうした行事は、行政の力だけでは、決して成し遂げられるものではなく、多くの市民の皆様の地域を愛する気持ちと活動によって支えられ、育まれてきた大切な事業の一つでもあります。

これからも、市民の皆様と手を携えながら、「人が集い活力ある産業が育つまち」の実現に向け、各種産業の経営の安定化や販路拡大など、産業の活性化を図るための諸施策に積極的に取り組んでまいります。

市長に就任し、早いもので３年が経過いたしました。

この３年間、私は、このふるさと熊谷を市民の皆様が県北の模範都市として誇れるまちにするため「新熊谷プライドの創造」を政策理念に掲げ、市民の皆様とお約束をした「まちを元気にするための７つの基本政策」の実現に向け、力を注いでま

いりました。

その具体的な取組として、本市の魅力の発信や、市民皆様の暮らしをより便利で充実したものにするため、都市ポータルアプリ「クマぶら」を導入し、行政情報の発信を始め、地域電子マネー「クマＰＡＹ」やコミュニティポイント「クマポ」の運用を開始したほか、コミュニティバスの「スマホ回数券」として利用できるようにするなど、行政サービスの DX 化を積極的に推進してまいりました。

また、「親も子も笑顔が輝く熊谷を創る」ため、安心して子育てができる環境づくりとして、熊谷駅に直結した商業施設内に新たな保育ステーションの設置を進めたほか、子育てと保健に係る機能の充実と連携強化を図る「子育て支援・保健拠点施設」につきましても、令和８年４月のオープンに向け着実に整備を進めているところです。

「将来を見据えた熊谷を創る」ための施策としては、本市の長年の懸案でありました「北部地域振興交流拠点施設」や「利根川新橋」につきまして、現在、より具体的な検討を埼玉県などの関係機関と進めており、今後も早期実現に向け取り組んでまいります。

これらの事業は、本市を更に魅力ある都市へと発展させるための未来図を描く上で、どれも欠かすことのできない重要な施策であり、将来のまちづくりのための投資だと考えております。

これからも、市民ファーストな行政をモットーに、ふるさと熊谷の発展のため、そして未来を担う若者たちがこの熊谷に住

むことに誇りを持てるような、安全で満足度の高い、賑わいと活気に満ちた都市（まち）にするため、「誠実」、「公平」、「実行」を信条に情熱と誠意をもって、政策の実現に向け取り組んでまいりますので、議員の皆様には一層の御理解と御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、今定例会に提案いたします諸議案につきまして、その概要を御説明申し上げます。

初めに、補正予算案でございますが、一般会計補正予算のうち歳出の主なものにつきまして御説明申し上げます。

総務費におきましては、新市建設計画に位置付けられている地域振興等のソフト事業の財源に充てることができる、旧合併特例債を活用した地域振興基金への積立を行うものでございます。

民生費におきましては、放課後児童クラブにおける待機児童の解消と、通所時における児童の安全性を高めるため、江南北小学校内の余裕教室を活用し、新規に児童クラブを整備するものでございます。

衛生費におきましては、出産後１年未満の母子に対する心身のケアと育児サポートを行う「産後ケア事業」について、利用対象が拡大されたことに伴い、大幅に利用者が増加していることから、産後ケアに係る経費を追加し、より多くの子育て家庭への支援を行ってまいります。

続いて、歳入でございますが、今回の補正の財源として、国・県支出金などの特定財源のほか、寄附金や前年度繰越金を充てることといたしました。

このほか、今年度中に業者選定から契約までの一連の準備行為を行う必要がある業務委託や指定管理のほか、公共工事の施工時期の平準化を目的とした債務負担行為を追加するものでございます。

続きまして、特別会計補正予算でございますが、後期高齢者医療特別会計につきまして、還付金の決算見込みを勘案し、所要額を補正するものでございます。

次に、公営企業会計補正予算でございますが、水道事業会計及び下水道事業会計につきまして、公共工事の施工時期の平準化のため債務負担行為を追加するものでございます。

以上が補正予算案の概要でございます。

また、一般議案といたしまして、本市における産業の振興と、雇用の促進を図ることを目的とした、企業の立地及び拡大に必要な奨励措置として、新たに社宅・社員寮建設等の支援を設けるほか、これまでの実績等を踏まえ奨励金の種類や交付額の見直しを行うための「熊谷市企業の立地及び拡大の支援に関する条例の一部を改正する条例」などを提案しております。

慎重審議の上、御可決賜りますようお願い申し上げまして提案理由の説明とさせていただきます。